

幼児の体験活動事業

「主体性・社会性を育む幼児キャンプ 大自然に“いっぽ”」

1. 趣旨

自然を介した学びの場において、幼児の自立心や協調性、感性を育む。また、日常での子育てにつながられるように、実習や講義を通して幼児期の自然体験活動の意義について保護者の理解を深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

プレキャンプ 平成28年 8月27日(土) [日帰り]

本キャンプ 平成28年 9月17日(土)～19日(月・祝) [2泊3日]

(2) 参加者

①参加対象及び人数

幼稚園・保育園 年中・年長児(4～5歳児) 20名とその保護者

②参加状況

年中児：8名 年長児：15名 保護者及び参加対象の家族：49名

3. 企画運営のポイント

①本事業は、親子別プログラム、事業を2回に分ける(プレキャンプと本キャンプ)、「7つの要素(沢・山・火・テント泊・自由遊び・本・包丁)」をプログラムに取り入れるということを企画運営のポイントとしている。それは担当者が替わってそれぞれのねらいでアレンジする部分はあっても、12年間継続して取り入れてきた。

②子ども、保護者それぞれのプログラムの達成目標とそれを達成するための「作戦」を掲げた。その作戦は「活動にも選択肢を設け、自分で選ばせる」といった具体的に意識しやすいものにする事で、企画運営者だけでなく、講師、ボランティアにも企画運営のポイントが伝わるようにした。

4. 日程

プレキャンプ	8月27日(土)	子ども	森の自由遊び・キャンプ場探検 講師：尚絅学院大学 総合人間科学部子ども 学科准教授 山崎 裕 氏	みんなでお昼ごはん&親子で沢まで探検・宝探し
		保護者	本キャンプに向けてやる気になるお話 講師：山梨大学教育人間科学部教授 川村 協平 氏 本キャンプに向けた説明	
本キャンプ	9月17日(土)	子ども	森遊び・野外調理体験・寝る場所決め	
		保護者	※受付後、保護者の方々は一度帰宅	
	9月18日(日)	子ども	沢登り・スタンプ練習・野外調理体験・寝る場所決め・ドラム缶風呂での入浴・「たき火ナイト」と「はかせナイト」・テント泊か夜空泊	
		保護者	※本館に集合して、プログラムを実施 沢登り・野外調理体験・子育て座談会	
9月18日(月・祝)	子ども	山歩き		みんなで昼食会
	保護者	オトナタイム(御駒山登山、クラフト)		

5. 主な活動内容



子どもプログラム：沢活動



子どもプログラム：夕食パン作り



子どもプログラム：たき火ナイトで紙芝居



保護者プログラム：御駒山登山

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：73.9% やや満足：21.7% やや不満：4.3% 不満0%

(2) 参加者の声（保護者の回答）

- ・プレキャンプでの講師の話はキャンプがどんな効果があるのか分かった。沢登りは子どもの大変さが分かった。野外調理体験と子育て座談会は自分も楽しめた。
- ・大人も子どもと同じプログラムをすることはとても良いと思いました。

(3) 成果

親子別プログラムを実施するにあたり、それぞれのプログラムの達成目標とそれを達成するための「作戦」を掲げて企画運営を進めたことで、そのねらいが直接参加者と関わる講師、ボランティアに伝わりやすかったと捉えられる。それは講師の話やボランティアが作成した参加者への報告書から感じられ、それが最終的に参加者に伝わったことが保護者の事業直後及び1ヶ月後の感想からうかがえる。

(4) 課題

- ①プレキャンプ時に体調不良だった参加者を断り切れずに本キャンプのみの参加としたことで、持ち物等について伝達の不備があり本キャンプ当日の対応に支障をきたしてしまった。加えて、プレキャンプの講話や担当者からの趣旨説明も欠けてしまったため、本事業の趣旨についての理解が少ないままであることが感じられたので、プレキャンプの重要性を改めて認識し、参加者対応について徹底する必要がある。
- ②保護者以外の家族(子ども参加者の兄弟姉妹)が今回15名で、その中には乳幼児も含まれており、対応する保護者プログラム担当者の負担が大きかった。ただそれによって、両親での参加が半数以上の12組と多くなったといえるため、本事業の趣旨や昨今の子育ての現状を踏まえると、両親の参加自体は歓迎すべきことと捉え、どのように対応を工夫していくか検討する必要がある。

担当：企画指導専門職 島貫 織江